

# 主体的・対話的で深い学びを 実現するために

文部科学省 初等中等教育局  
幼児教育課長  
藤岡 謙一

# 自己紹介

平成11年 文部省(当時)入省

主に小・中・高等学校関係の仕事に携わる

平成21年～23年度 岐阜県教育委員会に出向  
(学校支援課長、教職員課長)

平成26年～28年度 横浜市立旭中学校長に出向  
(文部科学省職員 of 校長職への出向は2人目)

平成30年～令和2年度 中国大使館に出向

令和3年度～ 現職



卒業式での写真

# 本日の概要

1. 学校の課題

2. 原因

3. 解決策

4. 私たちに何が求められるのか

笑顔でお聞きください





# 1. 学校の課題

5 1 2

2 4 万

なにになに期

なぜなぜ期







## 2. 原因

嫌なことから逃げてしまう

粘り強く取り組めない

# 3. 解決策

# 主体的とは

- 学ぶことに興味関心を持つ
- 見通しをもって粘り強く取り組む
- 自分の学習を振り返って次につなげる

# 対話的とは

- 子供同士や教職員、地域住民などとの対話を通じて、自分の考えを広げ深める

# 深い

- 知識を相互に関連付けてより深く理解する
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見いだして解決策を考える
- 思いや考えを基に創造する



主体的、対話的で深い学びのためには

子供自身に

それを実現できる**ベースとなる力**

が必要

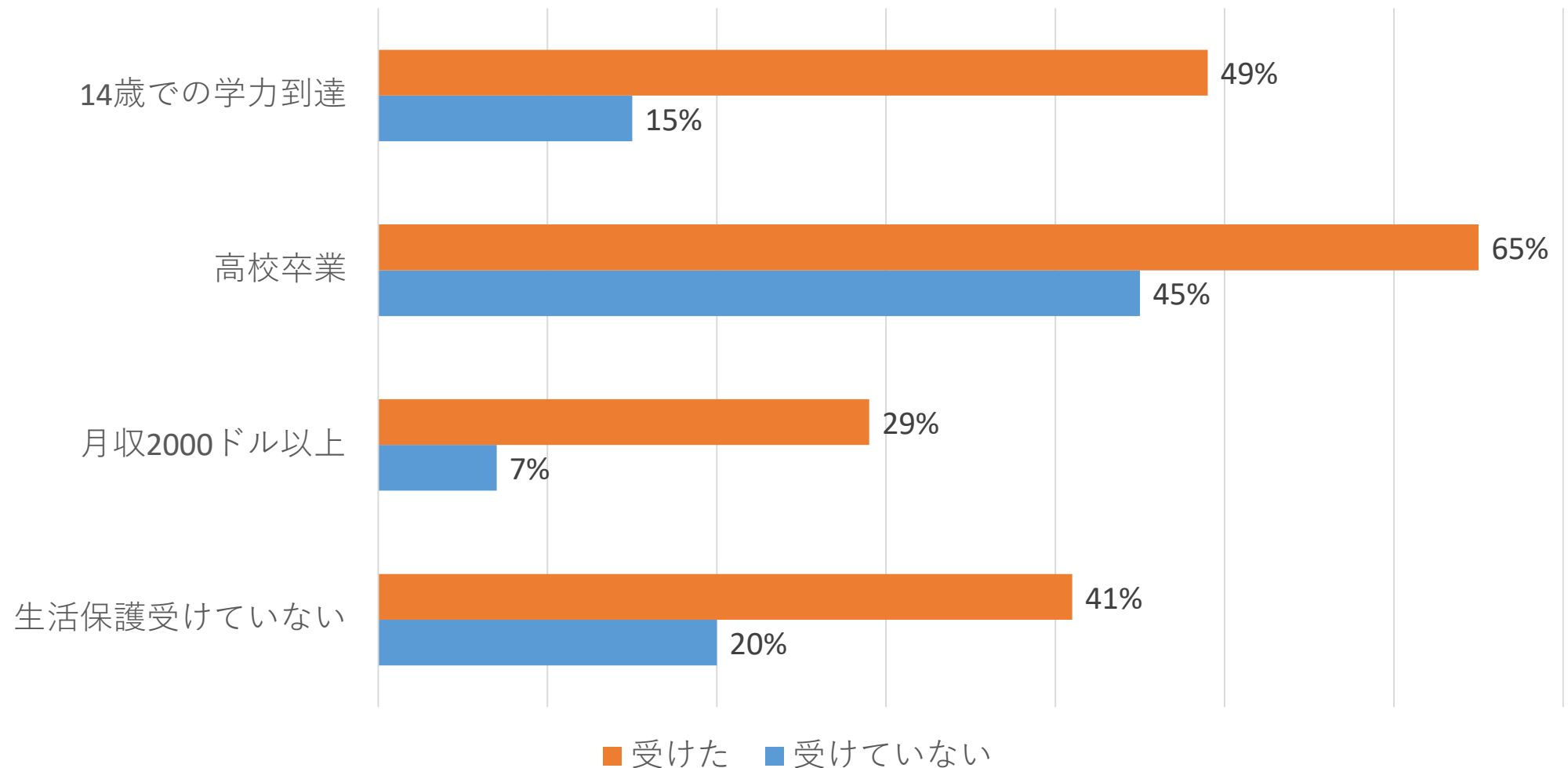
# 非認知能力

# ペリー就学前プロジェクト

# ペリー就学前プロジェクトとは？

アメリカで実施

低所得者層の子について、質の高い幼児教育を受けるグループと受けないグループに分けて、その後40歳まで追跡調査



IQは、10歳ごろまでは高いが、それ以降は差が無くなる。

しかし、14歳の学力やその後の社会生活で差が生じている。



学校での学力や、その後の社会生活での差は、認知能力であるIQではなく、**非認知能力**が影響を及ぼしている

# 非認知能力

IQに代表されるような認知的な能力ではないものを幅広く指す総称

GRIT（やりぬく力）

Guts（困難に立ち向かう度胸）

Resilience（失敗しても諦めない粘り強さ）

Initiative（自らが目標を定め取り組む自主性）

Tenacity（最後までやり遂げる執念）

（アンジェラ・リー・ダックワース　ペンシルベニア大学心理学部教授）

# 非認知能力

の育ちを支える **幼児教育**



- 非認知能力：自己と社会性に関わる力、その基盤
- 今、注目される非認知能力
- 「非認知能力」という言葉、保育者はどう感じた？

取り組み事例

01 自己にかかわる心の力

取り組み事例

02 社会性にかかわる心の力

取り組み事例

03 非認知能力を支える基盤

- 非認知能力を育む上で大事にしたいこと

東京大学 Cedep  
2021年度  
文科省委託調査

- 非認知能力の育ちを支える幼児教育等の指導の在り方に関する委託事業を実施。
- 事業の成果報告書やリーフレット等については、文部科学省HPにおいて随時掲載。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1405077\\_00007.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1405077_00007.htm)

# 大人が教えないというルール ～さをり織～

- ・糸を張るまでは大人がやるが、それ以降は子供に任せる。
- ・うまくいかなくても、個性として捉え、失敗とは捉えない。
- ・自分の作品と自分自身を認められ、自分を肯定的に捉える機会になっている。





# こどもの発想に、とことん付き合う

- ・スイカ割をしたいというクラスでは、スイカを運ぶ方法を試行錯誤した。保育者も、とことん付き合った。



- ・草木染では赤い花で染めても赤くなるわけではない。子供は出したい色のために花を探し回った。
- ・あえて便利でない環境にしている中で、完成するまで試行錯誤しながら何度も粘り強く取り組んでいる。

## 非認知能力を育む上で重要だと思うこと

- ・ 子供が安心できる関係を作る
- ・ 環境を整える「黒子」になる
- ・ 子どもの想いに寄り添う
- ・ 保育者自身の非認知能力を養い、発揮する
- ・ その理解で合っているか、大事なことは何かを考え、学び続ける
- ・ 身構えず、小さな積み重ねを続けていく

「非認知能力に関する保育・幼児教育施設の意識や取り組みと園児への影響に関する調査研究報告書」 (東京大学)

子どもたちの やり抜く力を高めるため  
私たち自身が やり抜かないといけないんです

(アンジェラ・リー・ダックワース ペンシルベニア大学心理学部教授)

子供たちが  
将来にわたって笑顔で過ごせるよう  
皆様の素晴らしい実践を  
心から期待しております

